

日本臨床教育学会・北海道臨床教育学会 第5回研究大会（合同）開催要項

第2次案内



三伏大暑の候、会員の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

日本臨床教育学会と北海道臨床教育学会の第5回大会は、9月26日（土）と9月27日（日）の両日、北海道教育大学札幌校を会場に合同で開催されます。大会では、学会活動で積み上げられた課題研究やシンポジウムをはじめ、北海道という地域で開拓されつつあるテーマのシンポジウムが企画されています。また、自由研究においても、一般研究や実践事例研究として、多様で深みのある研究が交流される予定です。お誘い合わせの上、今大会に多数ご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

大会実行委員長

庄井 良信（北海道教育大学）

1. 日時：2015年 9月26日（土）・27日（日）

※ 9月25日（金）16:30～18:30 理事会（予定）

※ 1日目：9月26日（土）

9:30	10:00		12:00	13:00		15:00	15:15	17:15
受付	自由研究発表（A） 一般研究		昼食	課題研究 I・II・III・IV・ V・特別課題研究		休憩		シンポジウム I

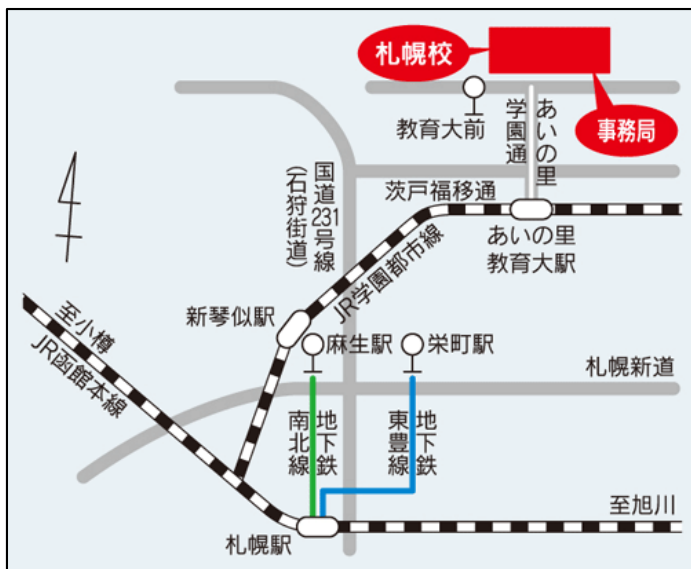
※ 18:30～20:30 情報交換会（会場：シャトレーゼ・ガトーキングダムサッポロ）

※ 2日目：9月27日（日）

8:50	9:20	9:50	10:20	10:30		12:30	13:30	15:50
受付	定期総会 I（日本）	定期総会 II（北海道）	休憩		シンポジウム II	昼食		自由研究発表（B） 実践事例研究

2. 会場：北海道教育大学 札幌校

(住所：〒002-8502 北海道札幌市北区あいの里5条3丁目1-5)



【主な交通手段】

JR

学園都市線「あいの里教育大駅」下車、徒歩20分

地下鉄・バス

地下鉄南北線：

「麻生駅」から中央バス「麻 24 あいの里教育大線」で「あいの里4条5丁目」又は「教育大学前」下車、徒歩2分

地下鉄東豊線：

「栄町駅」から中央バス「栄 23 栄町・教育大線」で「教育大学前」下車、徒歩2分

自家用車で来られる方は、大会会場に駐車場があります。数に限りがありますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。

3. 大会実行委員会

実行委員長	庄井 良信 (北海道教育大学)
副実行委員長	間宮 正幸 (北海道大学)
	守屋 淳 (北海道大学)
	田中 昌弥 (都留文科大学)
	富田 充保 (相模女子大学)
	福井 雅英 (滋賀県立大学)
事務局 長	畠山貴代志 (北海学園札幌高等学校)
事務局 次長	正武家重治 (札幌市立中央小学校)
	上田 孝俊 (武庫川女子大学)
実行委員 幹事	荒木 奈美 (札幌大学)
	池田 考司 (北海道奈井江商業高等学校)
	井上 大樹 (北海道文教大学)
	内田 雅志 (札幌市子ども発達支援総合センター)
	齋藤 知子 (札幌市立あいの里東小学校)
	中根 照子 (釧路市立釧路小学校)
	宮井 真由 (公立学校スクールカウンセラー)
	宮原 順寛 (北海道教育大学)

4. 後援 北海道教育委員会、札幌市教育委員会

5. 共催 北海道教育大学

6. 課題研究



* 課題研究Ⅰ：現代の子どもと子ども理解

<テーマ> 子ども理解の深化過程における援助者の自己理解とその変容

司会者：森 博俊（都留文科大学名誉教授）
 廣木 克行（神戸大学名誉教授）
報告者：井上 文恵（発達障がいサポーター・元公立小学校教員）
 野村 俊幸（はこだて若者サポートステーション専門相談員）

<企画の趣旨>

「子ども理解」を主題とするこの部会では、昨年度の研究大会以降3回の研究会を開催し、相談と教育の現場における実践を振り返り、そこにおける「子ども理解の方法意識」に焦点を当てて検討を重ねてきた。子どもが表出する言動の意味を判断した根拠や、そこに反映された自分(実践者)の意識を捉え直すことを通して、「子ども理解」の実践的方法に迫りたいと考えたからである。今回の研究大会では上記のテーマの下に「子ども理解」の方法意識について論議を深めたい。



* 課題研究Ⅱ：子どもの育ちを支える地域からの共同

<テーマ> 困難を抱えた子ども若者への個人的支援から地域における切れ目のない支援へ そのプロセスと課題を探る

司会者：川俣 智路（大正大学）
 向井 健（松本大学）
指定討論者：富田 充保（相模女子大学）
報告者：相馬 契太（NPO法人 訪問と居場所 漂流教室）
 中里 明雄（登別市立幌別西小学校）

<企画の趣旨>

地域には、子ども・若者支援にかかわる様々な取り組みが存在している。しかし積み重なる困難を抱えた子ども・若者の人生への支援に、少なくない切れ目やすき間が存在していることも事実である。そこで、そうした切れ目・すき間を埋めようと試みる支援組織や個人取り組みの過程と質的变化、ならびにその位置付け・重要性を参加者とともに考えあいたい。そのなかで、学校を含んだ多様な居場所づくり（横軸）と各年齢段階（縦軸）における支援の網の目を、子ども・若者たちとともにどう作っていったらよいのか、事例をもとに議論してみたい。



＊ 課題研究Ⅲ：発達援助実践と発達援助専門職

＜テーマ＞ 「身体性」や「間身体性」を鍵概念とする問い直し

司会者：間宮 正幸（北海道大学）

佐々木佳子（札幌市立中学校）

指定討論者：守屋 淳（北海道大学）

今野 邦彦（藤女子大学）

報告者：小西 優佳（北海道こども心療内科氏家医院）

石岡 卓（北海道真駒内養護学校）

＜企画の趣旨＞

「教育学を問い直す、教育の専門性を問い直す、その養成を問い直す」という観点から、教育現場における子どもたちと支援者の、心身を通した発達支援の課題を問い直す。この分科会においては、「身体性」「間身体性」を鍵概念とする問い直しの重要性が共有されてきている。今次の報告のひとつは、肢体不自由を持つ児童生徒の自立活動実践から「身体性」や「間身体性」を問う報告である。もう一つは、スクールカウンセラーからの「ふれる」をキーワードとした「身体性」を問う実践報告である。



＊ 課題研究Ⅳ：学校・教師の問題/教育実践と教師

＜テーマ＞ 現場で直面する問題に向き合いながら育てる教師の専門性

司会者：池田 考司（北海道奈井江商業高等学校）

山岡 雅博（立命館大学）

報告者：太田 一徹（札幌市立羊ヶ丘小学校）

加藤恵美子（武庫川女子大学大学院博士後期課程）

笹原 克哉（前上ノ国町教委指導主幹）

＜企画の趣旨＞

学校現場では、引き続き「学力テストの平均点競争」体制が強化され、テスト対策が優先されたような動きが広がっている。それは、日本の教師が子どもと触れ合いながら創造的に展開してきた教育実践の幅を狭め、結果として学ぶよろこびを奪い、子どもの社会連帯性を育て人間の成長を図るような教育実践を困難にしている。それはまた、教師本来の生き甲斐やよろこびも奪うことになる。一方で、教員免許の国家資格化の動きもある。こうした状況下で、①子どもの声を聴き、子どもとともに学ぶ創造的な実践を検討すること、②教師が実際に現場で直面している課題にそってその専門性を問い直すことを、本課題研究の今回の柱としたい。



＊ 課題研究Ⅴ：臨床教育学の方法と概念

＜テーマ＞ アクティブ・ラーニングを問い直す

司 会 者：庄井 良信（北海道教育大学）
 荒木 奈美（札幌大学）
報 告 者：坂井 亮一（苫小牧市立錦岡小学校）
 田中 昌弥（都留文科大学）

＜企画の趣旨＞

アクティブ・ラーニングの小・中・高校への導入が、次期学習指導要領改訂の柱になろうとしている。アクティブ・ラーニングには、日本の教師が行ってきた創造的な教育実践と重なる面がある一方、子どもの認識の内実を無視した形式化が行われれば、学習の疎外をより深刻化させる危険も含まれている。今年度の課題研究では、この問題を検討する枠組を得る視点から、子どもの認識に即した臨床教育的な教育実践研究の方法を模索したい。



＊ 特別課題研究：東日本大震災と臨床教育学

＜テーマ＞ 四年余の現地訪問・聴きとり調査をふりかえり、臨床教育学の課題と方法を考える

司 会 者：石井 邦也（元高等学校教師）
 渡邊 由之（武庫川女子大学）
報 告 者：筒井 潤子（都留文科大学）
 上田 孝俊（武庫川女子大学）

＜企画の趣旨＞

日本臨床教育学会は、東日本大震災の直後から、「震災調査チーム」を作り、現地訪問・聴きとり調査を重ねてきた。大震災から四年半余りが経つが、人々の暮らし、生活圏としての地域の再建が順調に進んでいるとはとても言えない。そのなかで、人々の疲労や子ども・若者の成長上の問題の蓄積も、新たに目立ってきている。そこで、今回は、これまでの調査をふりかえり、今後の援助的・教育的実践の課題、臨床教育的な調査・研究の課題を考えあいたい。



7. シンポジウム



* シンポジウムⅠ：＜臨床＞を生きる援助者のライフヒストリーを聴く

— 地域臨床教育学を構想するために —

司会者：福井 雅英（滋賀県立大学）
 中根 照子（釧路市立釧路小学校）
コメンテーター：守屋 淳（北海道大学）
 富田 充保（相模女子大学）
趣旨説明：庄井 良信（北海道教育大学）
報告者：山名 徹（札幌市若者支援総合センター）
 藤澤 淳（松前町立大島小学校）

<企画の趣旨>

臨床教育学は、唯一性をもった尊厳ある他者の声を聴きその語りを傾聴しあう＜臨床の場＞を共有し、そのことを通して、地域における総合的な人間発達援助学を構想し合ってきた。そして、今日の厳しい社会状況を生きる一人ひとりの感情の機微に触れる語りを聴き合いながら、ケアと発達援助の実践、あるいは、地域・社会や文化・政策の課題や可能性を問い直し、みずからの専門性を高め合ってきた。今回のシンポジウムでは、いま北海道で構想しつつある地域臨床教育学の可能性を探究したい。



* シンポジウムⅡ：発達援助における情動・感情の問題

司会者：宮崎 隆志（北海道大学）
 内田 雅志（札幌市子ども発達支援総合センター）
指定討論者：田中 孝彦（武庫川女子大学）
報告者：畠山 寛法（札幌刑務所教育部）
 庄井 良信（北海道教育大学）
 間宮 正幸（北海道大学）

<企画の趣旨>

本学会「設立趣意書」に掲げる臨床教育学の研究諸課題をさらに深めるために、重要な検討課題のひとつである情動・感情の問題を取り上げる。本シンポジウムは、これを実践的にも理論的にも深める機会としたい。報告は、通常、学校教育から遥か遠くに位置すると考えられているだろう少年院・刑務所における臨床教育学的実践である。ここでの実践における情動・感情の問題をヴィゴツキーとワロンの心理学・教育学から読み解きたい。

8. 自由研究発表

- * A：一般研究：1日目（9月26日）10:00～12:00
- * B：実践事例研究：2日目（9月27日）13:30～15:50

<発表時間>

A：一般研究における個人研究の場合、発表は20分、質疑は5分です。

また、共同研究で発表者が複数いる場合、発表は40分、質疑は10分です。

なお、各分科会では、数名の発表が終わった後に、全体討論を15分程度予定しています。

B：実践事例研究における個人研究の場合、発表は40分、質疑（カンファレンス）は20分です。（なお、共同研究で発表者が複数いる場合でも、1つの発表につき、発表時間は40分、質疑・カンファレンスは20分ですのでご注意ください）。



自由研究発表（A）：一般研究発表 （9月26日 10:00～12:00）



- * **一般・第1分科会**：臨床教育学の思想と方法

アンリ・ワロンの発達教育思想を日本の臨床教育学にどう生かすか（2）

間宮 正幸（北海道大学）

亀谷 和史（日本福祉大学）

今野 邦彦（藤女子大学）

ユーモアとしての臨床教育学

—相対化の<質>に注目して—

平野 拓朗（大阪女子短期大学）

日本における Narrative Inquiry の試み

—小学校実践での課題と展望—

沼田あや子（首都大学東京大学院）

吉田 由貴（首都大学東京大学院）

武村 知保（筑波大学心理・発達相談室）

米澤 篤代（元首都大学東京大学院）

* **一般・第2分科会**：学校現場の課題と臨床教育学

全国学力学習状況調査での北海道の市町村状況

高橋 亜希子（北海道教育大学）

臨床的制度論のための「臨床」概念の検討

—教員の業務負荷を手がかりに—

宮井 真由（北海道大学大学院修士課程）

学校・家庭・地域の連携を検証する新たな視点

—地域教育への臨床的アプローチ—

井上 大樹（北海道文教大学）

* **一般・第3分科会**：教育実践と臨床教育学

子どもたちが学びに向かう姿の検討

今田 章子（北海道大学教育学院博士課程）

反応性愛着障害、発達障害等のある中学生への調理授業の実践と評価

後藤 千佐子（札幌市立大学大学院博士課程）

学習指導法に向けて注がれる教師のまなざし

山口 好和（北海道教育大学）

* **一般・第4分科会**：子ども・若者と「自己」

障がいのある若者たちの発達とヘアメイク

—「変化する自分」を見つめることの意味—

河村 あゆみ（岐阜大学）

土岐 邦彦（岐阜大学）

「子どもの哲学」の中から見えてくる、語ることの経験

—生きることと語ることはどのように結びつくのか—

北浦 貴之（山梨県・小学校）

不登校経験者の「不登校経験」の意味

高橋 志織（北海道大学大学院修士課程）

* **一般・第5分科会**：子ども理解と子どもの生活・発達

デンマークの子どもたちにおける生活臨床の可能性

—生活実態調査の結果をもとに—

- 小谷 正登（関西学院大学教職教育研究センター）
- 岩崎 久志（流通科学大学）
- 加島ゆう子（西宮市夙川小学校）
- 三宅 靖子（天理医療大学）
- 下村 明子（愛知医科大学）
- 河西 利枝（芦屋市立山手小学校）
- 栗栖 清美（森ノ宮医療大学）
- 木田 重果（西宮市立浜甲子園中学校）

中学生から高校生の移行期に大切なことは何か

—学校間の言語表現の差異に着目して—

- 佐々木 貴美（川崎市立御幸中学校）

* **一般・第6分科会**：発達援助職・教育職の養成と研修

教員養成「高度化」は進んでいるか

—教職大学院の現職教員学生と学部直進学生の共修から考える—

- 中妻 雅彦（愛知教育大学教育実践研究科）

保育専門職の保育内容と保育制度における保育イメージの乖離についての
検討と保育者養成と実習施設の連携の課題

- 長谷 範子（武庫川女子大学大学院博士後期課程）

現場で交錯する教師像から発達援助職としての教師像の考察

- 吉益 敏文（関西教育科学研究会）

* **一般・第7分科会**：教師の専門性と同僚性

教師と学習者のあいだをつなぐ臨床教育学的な方法とは何か

—大学教育での実践から見えてきたこと—

- 荒木 奈美（札幌大学）

「求心性」と「遠心性」が交差する場としての職員室

- 佐藤 昭宏（こころとそだちのクリニックむすびめ）

特別支援教育における自立活動教諭の専門性

- 今野 邦彦（藤女子大学）



自由研究発表（B）： 実践事例研究発表

9月27日 13:30～15:50



* **実践事例・第1分科会** 学習の臨床教育学的検討

一人ひとりの学びを保障する授業（その2）

—子どもたちの学びを立て直した実践の臨床教育学的検討—

吉田 雅風（北海道大学大学院修士課程）

佐竹 貴明（北海道大学大学院修士課程）

松田慎一郎（札幌市立もみじの森小学校）

守屋 淳（北海道大学）

子どもの生活・感情とつながる学習指導の共同研究

池田 考司（北海道立奈井江商業高校）

高橋亜希子（北海道教育大学）

* **実践事例・第2分科会** 青年期の発達と支援

共同農作業体験による新たな若者自立支援の試み

安達 尚男（青少年自立支援センタービバハウス）

困難を抱える生徒の「立ち直り」を支える高校教育

—教科指導、特別活動、進路指導、生活指導を統合する教育の試み—

續橋 淳子（小樽明峰高校）

* **実践事例・第3分科会** 病い・障がいと臨床教育学

慢性の「病い」を生きる子どもの「自己」の形成に関する一考察

斉藤 淑子（武庫川女子大学大学院博士課程）

子育て支援の充実のなかですすむ「障がいの発見と対応」の可能性について

荒井 聡（東京都豊島区立東部子ども家庭支援センター）

＊ **実践事例・第4分科会** 養育困難と教育・支援

小学校の特別支援教育現場における障害児家族の貧困と養育困難

加茂 勇（新潟市・小学校）

山田 葉子（新潟市・小学校）

＊ **実践事例・第5分科会** 子ども理解とカンファレンス

学生ボランティア活動の記録を通じた児童理解の一考察

木村 大輔（札幌市立手稲山口小学校）

ムーミン谷のカンファレンス

ー今、あなたの思いに耳を傾けますー

正武家 重治（札幌市立中央小学校）

島山 貴代志（北海学園札幌高校）

＊ **実践事例・第6分科会** 発達援助の共同

教師同士が「わかり合う」ために

ー「わかり合えない」背景の考察ー

須田 祐右（札幌市立新陵東小学校）

教育実践研究におけるナラティブ・アプローチの可能性

ー語ること、聴くこと、そこから生まれることー

小笠原 はるの（札幌大学）

久野 弓枝（札幌大学）

荒木 奈美（札幌大学）

＊ **実践事例・第7分科会** 教育職の専門性の探究

インクルーシブな学びをめざす発達援助実践

ー中学校教員としての「自己物語の探究」を通してー

笹木 陽一（札幌市立栄町中学校）

保健室の営みから子ども理解と養護教諭の専門性を探究する

國保 いずみ（平取町立平取小学校）



9. 大会参加費

先般お送りした「第1次案内」では、大会参加費の事前申込と当日申込で参加費の金額が異なるようにご案内しておりましたが、遠方から参加される方々のご負担を軽減し、大会当日の事務的な混乱を避けることを考慮し、参加費の事前申込は行わないことにいたしました。大会参加費は、下記の金額を、大会当日に受付でお支払いください。

	参加費
一般	4,000 円
学生・院生	2,000 円

大会には、会員以外の方でも、「当日会員」として上記の参加費でご参加いただけます。
会員か非会員かにかかわらず、また、発表するかないかにかかわらず、事前の申込は不要です。

* (注) 上記の参加費は、発表要旨集録代を含みます。

なお、大会に不参加で発表要旨集録を希望される方は、大会以降に1部2,000円で頒布します。
ご希望の方は、日本臨床教育学会事務局までお問い合わせください。

10. 昼食 (お弁当の事前注文の受付)

大会両日とも、昼食(1日目～鮭飯弁当、2日目～北海道産牛飯弁当)の注文をお受けいたします。弁当の代金は、1日目も2日目も、それぞれ900円(お茶付き)です。ご希望の方は、同封の振込用紙にて、事前にお支払いください。締め切りは2015年9月10日とさせていただきます。(なお、お弁当の販売は、事前注文のみとなりますので、あらかじめご了承ください。大会会場の近くには、飲食店やコンビニ等があまりありませんのでご注意ください)。

11. 情報交換会

9月26日(土) 18:30～20:30に、シャトレーゼ・ガトーキングダムサッポロ(札幌市北区東茨戸132番地)で開催する予定です。

事前にお申し込みいただく場合の参加費は、5,500円(税込)です。

多数のご参加をお待ちいたしております。情報交換会に参加ご希望の方は、同封の振込用紙にて事前にお支払いください。

事前申込の締め切りは、**2015年9月10日(木)**までとさせていただきます。

なお、事前申込なさらずに情報交換会へ当日参加を希望される場合は、7,000円(税込)の参加費をいただきますのでご了承ください。

※ 事前申込のキャンセルは、9月17日までにご連絡をいただければ返金いたします。

なお、情報交換会の会場へは、学会会場（北海道教育大学札幌校）から貸し切りバス（無料）が出ます。また、情報交換会終了後も、会場から札幌駅北口（地下鉄南北線麻生駅経由）まで、バス（無料）が出ます。自家用車での移動も可能です。（情報交換会の会場内は禁煙ですので、ホテル内に設置された喫煙所をご利用ください）。

12. 宿泊

大会参加のための交通機関及び宿泊のご手配は、会員各自でお願いいたします。会場の北海道教育大学札幌校周辺には、宿泊施設がございませんが、札幌駅周辺に多くの宿泊施設があります。

なお、今大会の開催日は、連休前後の日程のため宿泊施設の混雑が予想されます。お早目のご予約をお勧めいたします。



<問い合わせ先>

日本臨床教育学会・北海道臨床教育学会
第5回研究大会実行委員会



〒002-8502 北海道札幌市北区あいの里5条3丁目1-5
北海道教育大学札幌校 庄井良信研究室内
E-Mail : crohde2011@yahoo.co.jp